

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 藤岡市立小野中学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 375-0002

群馬県藤岡市立石407

E-mail ono-jhs@fujiooka-school.gunma.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 162名 女子 145名 合計 307名

幼児・児童・生徒の年齢 13歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

地域貢献活動…テーマ「愛いきプロジェクト」

平成14年度から実践してきた「地域を愛し、自分と異なる人の生き方をも愛する 愛いき運動」をさらに推進し、環境問題や人権教育への視野を広げる活動を行った。また、地域で生まれ、地域で育ちながら、地域の方々とのつながりを大切にした活動を行った。

全員参加！アルミ缶収集！

①テーマ 「おじいちゃん、おばあちゃん、子どもたちに笑顔を」

②理念

中高合同のクリーン作戦（地域の環境美化作業）、年2回の校区内の美化活動を中心とした環境に関する活動に加え、委員会を中心としたエコ・リサイクル運動となるアルミ缶・ペットキャップ回収、地域内の福祉施設・保育施設との交流など、地域で生まれ、地域で育ちながら、地域の方々とのつながりを大切にしていくことの大切さを実感させる機会とする。

③ねらい

○エコ・リサイクル活動に参加し、環境への興味・関心を高める。

○エコ・リサイクル活動を通して、地域とのつながりを感じ、地域を愛する気持ちを育てる。

○ESDパスポートを活用して、ボランティア活動への関心を高め、多くの生徒が主体的にボランティアに取り組めるようにする。

(2) 活動の詳細

①活動内容

a ユネスコ講演会の実施

5月22日「ユネスコ講演会～持続可能な開発のための教育ESDとは」
藤岡地方ユネスコ協会会長 岸 正博先生



b アルミ缶等のリサイクル活動

家庭でためた缶や通学路に落ちていたアルミ缶を回収して換金し、地域の福祉施設に車椅子を寄贈、保育園に色画用紙を寄贈した。



c 保育園や高齢者施設との交流

1年生は高齢者施設を訪問してボランティア活動を行い、地域とのきずなを深めた。3年生は保育園を訪問してボランティアをした。

d 地域の環境美化活動

年2回、PTAや隣接高校と協力して校区内の清掃活動や校内の環境設備作業を行った。



e 夏休み「ちょボラ」の実施

夏休みに地域清掃等の自主的なボランティアを各自が企画し、実践した。

f 世界寺子屋運動

JRCユネスコ委員会 ユネスコの活動についてプレゼンテーションを行い、目的を全校生徒に伝えた。9月に1円玉募金、1月に書き損じはがき回収活動を行った。

g 「牛乳パック回収、プルタブ・ペットキャップ回収」



藤岡市ボランティアネットワークセンター「ウイズ」の活動（海外の子どもに教育を）に協力

h ESDパスポートの活用

リサイクル活動や施設訪問等のボランティア活動をパスポートに記入し、活動実績表をユネスコ協会に提出する。

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 生徒会活動)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

特になし

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

学校の特色ある実践として

「愛いき よりよい未来を共に生きよう」を総合的な学習の時間の学校テーマとし、地域と連携した1年生の「高齢者福祉施設訪問」2年生の「チャレンジウィーク」3年生の「保育所訪問」を位置づける。
ユネスコスクールとして、ESDパスポートを活用したボランティア活動を推進し、他者や地域・社会とのつながりを尊重し、主体的に行動しようとする態度の育成を図る。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

○総合的な学習の時間に「愛いき」を設定し、学年ごとに計画的に取り組む。
○生徒会活動 JR Cユネスコ委員会が中心となり、リサイクル活動や募金活動等のボランティア活動を企画運営し、全校体制で取り組む。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。

学校評価において

生徒主体、自治的な取り組みができているとした生徒評価は93%

保護者評価は84%

成果：地域清掃への参加など地域を大切にする気持ちを育てた。

リサイクル活動生徒感想

「誰かの笑顔を見るために、回収活動に参加してきました。一人一人の力は小さくてもみんなで協力することで車いすを3台も贈ることができました。人の役に立つことができうれしかったです。」

地域清掃生徒感想

「いつも使っている道路にこんなにたくさんのゴミが落ちていることに驚きました。自分は自分の出したゴミをしっかりと処理したいと思います。」

「ぼくたちがゴミ拾いをして、地域がきれいになっていくことに達成感を感じた。」
「どこかに行った時にも、ゴミが落ちているのに気付いたら自分が拾ってほしいと思いました。」
「地域がきれいになり、喜んでもらえたらうれしいと思った。」

課題：地域の行事等へ中学生の参加をうながす。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

各活動はHPや便りで随時発信してきた。
生徒集会では、JRCユネスコ委員会が全校生徒に向け、ボランティア活動の目的や参加を呼びかけた。
また、その成果をアルミ缶回収表彰としてたたえたり、車いすの贈呈式を行ったりした。その結果として生徒達は達成感を味わい、意欲の向上が見られた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)

『地域清掃』
保護者に協力を依頼したり、地域の民生委員さんの協力を仰いだりした。
地域の高校と合同の実施をしている。
『牛乳パック・ペットキャップ・プルタブの回収』
アジアの子ども達の教育の充実を目指している“藤岡市ウィズ”と連携をとっている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成

現在のところなし。
今後、小中一貫校として情報交換をしていきたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき(特に強調したい)内容(例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化)(200字程度)

地域貢献、環境保護とのつながりを明確にして活動に取り組み、ESDパスポートに記録をしていくことで、活動の価値を自覚し、より主体的な取り組みとなってきている。

- (3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

コミュニティースクールの実施と合わせ、学校運営協議会でボランティア活動を取り上げたり、学校支援ボランティアに協力を依頼するなどしたりすることにより、活動を地域に広報、支援の輪を広げていく。